



平成 9 年 4 月 1 7 日
日本原子力発電株式会社

敦賀発電所 2 号機の第 8 回定期検査開始について

当社、敦賀発電所 2 号機（加圧水型軽水炉：定格出力 116 万キロワット）は、4 月 18 日から約 4 ケ月の予定で第 8 回定期検査を実施いたします。

定期検査を実施する主な設備は次のとおりです。

1. 原子炉本体
 2. 原子炉冷却系統設備
 3. 計測制御系統設備
 4. 燃料設備
 5. 放射線管理設備
 6. 廃棄設備
 7. 原子炉格納施設
 8. 非常用予備発電装置
 9. 蒸気タービンおよび蒸気タービン付属設備
-

敦賀発電所 2 号機 第 8 回定期検査の概要

1. 主要工事等

（1）原子炉容器頂部温度低減対策工事

原子炉容器上部ふた（管台貫通部）の長期信頼性向上の観点から、原子炉容器内に流入した一次冷却材を頂部に導くスプレイノズルの内径を大きくすることにより、原子炉容器頂部への一次冷却材の流入量を増加させ、頂部温度の低減を図る。

（2）蒸気発生器伝熱管抜管調査

C-蒸気発生器の伝熱管 2 本について、インコネル TT600 材製伝熱管の健全性確認のため抜管調査工事を行う。

なお、抜管した伝熱管については、高温、低温の両側を施栓する。

(3) 原子炉容器供用期間中検査工事

原子炉容器の供用期間中検査（10 年計画）に基づき、原子炉容器胴部の溶接部等について、超音波探傷検査により健全性を確認する。

(4) 一次冷却材ポンプ供用期間中検査工事

一次冷却材ポンプの供用期間中検査として、4 台あるポンプのうち、A ポンプの分解点検（10 年に 1 回）を行い、ポンプケーシング等耐圧部の健全性を確認する。

(5) 放水口消泡対策工事（年間）

放水口の恒久的消泡対策のため、放水口を現状の越流堰方式からもぐり堰水中放流方式に変更する。

(6) アクシデントマネジメント対策工事

アクシデントマネジメント対策として、ECCS 再循環モード（*1）への移行に失敗した場合、格納容器スプレイポンプを用いた再循環を行うことにより、長期的炉心冷却を継続し、炉心損傷を防止するため、余熱除去系と格納容器スプレイ系を接続する配管を設置する。

*1；ECCS 再循環モード

一次冷却材喪失事故が発生し、ECCS 系（高圧注入系、低圧注入系）が起動した場合、燃料取替用水タンクのホウ酸水を原子炉内に注入する。さらに、燃料取替用水タンクの水位が低下すると、漏えいして格納再循環サンプに溜まった冷却水を余熱除去ポンプにより原子炉に注入する再循環モードに移行する。

2. 燃料取替計画

燃料集合体全数 193 体のうち、72 体を新燃料集合体（全て高燃焼度燃料集合体）に替える予定である。

3. 運転再開予定

原子炉起動・臨界 平成 9 年 7 月中旬

発電再開（調整運転開始） 平成 9 年 7 月中旬

定期検査終了（定常運転再開） 平成 9 年 8 月中旬

以上